

作家
元国際線乗務員
黒木安馬

【プロフィール】高校時に米国留学後、早稲田大学を経てJAL国際線客室乗務員として30年勤務。世界初の「カラオケ・フライト」や「1万メートル上空・北島三郎機上コンサート」などを実現させる。千葉の自宅は1300坪の山林を開墾してプール、テニスコート、コンサートホール等を手作りする。現在、㈱日本成功学会社長として自己啓発や社員教育で講演中。著書に『ファーストクラスの心配り』、『あなたの人格以上は売れない!』(プレジデント社)、『成「幸」学』(講談社)、『出過ぎる杭は打ちにくい!』(サンマーク出版)、『面白くなくちゃ人生じゃない!』(ロングセラーズ)、『小説・球磨川』(上下巻・ワニブックス)などがある。
E-mail:yasuma@myad.jp URL:http://www.3percent-club.com

21世紀だ！――――人生・農業リセット再出発 168

荒くれ漁師たちの女神

坪内知佳。福井商業高校を卒業後に名古屋外国語大学へ進むが中退。スチュワーデス（CA）を目指すも病気で断念。結婚して吉田松陰の松下村塾がある山口県萩市へ。男児を出産するが離婚。翻訳と経営コンサルタントの事務所を立ち上げる。仲居さんが足りないとアルバイト依頼が舞い込み、宴会場で出会った漁労長と運命的な会話を交わす。中国・韓国人たちの乱獲や環境変化で漁獲量が4分の1にまで減少している事実を知る。漁業経営の悪化で島の暮らしが成り立たない。生産現場の一次産業、加工の二次、販売・サービスの三次、1+2+3=6次産業。3つの船団がチームを組んで6次産業化へ向かえばどうだろう！と萩大島船団丸がここに誕生した。海での漁に加え、漁業協同組合を通さずに加工して販売まで手がける事業。漁師は出航して漁の操業から船上で魚の加工、得意先への箱詰めと商品発送など、24時間寝る暇もない労働。漁師は活き締めを面倒臭がった。それでも、船上の猛者に坪内はひるまない。

「世界に通用する品質を創りだすのよ！」

こう叱咤激励して漁師の意識改革に取り組み、獲った魚を船上で血抜き作業をして鮮度を保ち、価格を3倍に跳ね上げた。売上目標設定や販路拡大、シビアな数字と対面しながら交渉を続ける。気にかけるのは萩大島船団丸の従業員60人の雇用対策。売上を上げても現場が良くならないと意味がない。生活環境や経済状況の改善を行ない、働きやすく居着きやすい会社にしないと。3つの船団の社長たちが1万円ずつ出し、「これで事業を進めてくれ。俺たちは漁しかできん、頼む！」と船団丸の代表に就任した経緯がある。魚を獲るほかは全部私の仕事と、飛び込み営業で取引料理店を開拓し、ブランド魚を直送する新市場を築く。スマホに漁の見通しの連絡が入ると営業開始。料理店に向けて水揚げ予想される魚の種類を現場の漁師とリアルタイムで連絡を取りながら伝える。漁獲と注文を照らし合わせ、どの魚をどの料理店にどれだけ送るか振り分けて船に連絡する。深夜から未明の作業で、最短24時間で消費者の元に届けられる。どの魚がいつ水揚げされ、どの料理人の手でどう調理され、誰のお腹に入ったかをすべて追跡できる最強の商売を確立したのである。当初は屋号である萩大島の水産業のことだけを考えていたが、「日本の水産業を変えなくてはいけない！」と昨年、株式会社GHIBLI（ギブリ）とする。ギブリとは、サハラ砂漠から地中海に向かって吹く風のこと。世界の海を見て、日本の漁協組合任せに一石を投じて構造を変革させる。6次産業化は価値創出企業の進化と深化といえる。

6歳になる息子を持つシングルマザー。どこかの国際線フライトで一緒に乗務したことがあったっけ？と思わせる美貌とスタイル、身のこなしはスチュワーデス並みである。母親一人で子どもを育てることは仕事でハンディキャップになるが、子どもとの暮らしも考え方を変えたきっかけの一つ。大変だが環境には言い訳をしないと決め、子どもと一緒にいることは人生を創る一つの材料。小さいころから会社を興し、ビジネスを自分の手で発展させる人間でいたいと思い、1日が良ければそれでいい！とする。明日死んでも悔いのない生き方をしていきたい！「日経 woman of the year 2014」の美人受賞者と一緒に飲んでいると、荒くれ漁師たちの女神がJeanne d' Arc（ジャンヌ・ダルク）に見えてきた。